

Corporate Social Responsibility

CSR報告書 2008



トナミホールディングス株式会社
TONAMI HOLDINGS CO.,LTD.

目 次

- 2 | トップメッセージ
- 3 | 経営理念／事業報告
- 5 | 事業活動と社会・環境とのつながり

コーポレートガバナンス

- 7 | コーポレートガバナンス

社会とのつながり

- 9 | 安全な社会づくりを目指して
- 11 | 地域・社会への取り組み
- 13 | お客様とのパートナーシップ
- 15 | 人材の育成と働きやすい職場づくりを目指して

環境とのつながり

- 17 | 環境負荷低減に向けて
- 19 | 地球温暖化防止・大気汚染防止のために
- 21 | 環境と安全への取り組み
- 23 | 廃棄物削減への取り組み
- 24 | 輸送の効率化／環境物流

T O P I C S

- 25 | 新グリーンエネルギー利用の実現に向けて…

編 集 方 針

- トナミ運輸グループの純粋持株会社体制への移行（2008年10月1日）に伴い、2008年度版より、発行主体をトナミホールディングス株式会社としました。
- この報告書は、2007年度に行ったトナミグループのCSR活動を紹介しています。
- 構成にあたっては環境省「環境報告ガイドライン2007」を参考にしています。

対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日
（一部対象期間外の活動も含みます。）

対象範囲

トナミホールディングスグループの活動実績を対象とし、最も事業規模の大きいトナミ運輸（株）の報告を中心としています。

会社概要（2008年10月1日現在）

商 号	トナミホールディングス株式会社
創 立	1943年6月1日
資 本	14,182百万円
本 社	〒933-8788 富山県高岡市昭和町3丁目2番12号

ごあいさつ

純粋持株会社体制へ移行

平成20年10月1日付で、会社分割により「純粋持株会社体制」に移行し、監督機能と執行機能の分離を行い、ガバナンス体制を強化するとともに、各事業会社の責任と権限を明確にし、戦略的意思決定の迅速化を図ることによって、スピーディな経営と機動的な業務執行を効率的に行ってまいります。

今後、「お客様の高い評価と信頼をかちうる品質の実現」をサービス提供の基本として、3PL事業の拡大・高収益企業への成長を図ることにより、当社グループの企業価値向上に努めてまいります。

「和」の経営理念を実践し、経営基本方針に基づいて「企業の社会的責任(CSR)」を推進強化

トナミホールディングスグループは、『輸送を通じ社会に寄与し事業の発展をはかる』を経営基本方針として、「事業活動のあらゆる局面において、コンプライアンスを徹底する」ことを行動原則とし、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えております。

当社グループの社会的責任として、「輸送の安全を確保すること」、「地球環境に配慮すること」、「法令やルールを守ること」、「人権を尊重すること」、「地域社会に貢献すること」が不可欠なことであり、物流のエキスパートとして、実践しなければならないことと考えております。

昨今、二酸化炭素の排出による地球温暖化への影響も深刻化しており、エネルギー利用の一層の効率化を図ることが極めて喫緊の課題と認識し、当社グループは、物流の効率化、低公害車の導入、モーダルシフト、エコドライブ活動等を通じ、従業員全員が参加してエネルギーロスを生まない事業活動を実施してまいりました。

また、環境事業部門が中心となり、「社会・環境」というテーマで、資源の地域完結型リサイクルを推



トナミホールディングス株式会社
代表取締役社長

綿貫 勝介

進する「エコロックシステム」や「広域認定制度」などにより、効率のよい広域的なりサイクル活動を行うことによって、循環型社会作りに寄与するよう努めております。

現在、産業廃棄物の最適なりサイクルルートを提案する「エコ蔵」システム(ビジネスモデル特許出願)を環境物流の展開の中核としてその実現に向けて取り組んでおります。

今後は、企業の成長と環境保全、次世代を担うための「使命感をもった社会的に責任ある事業活動」により、CSRの推進を強化するとともに、継続的かつ持続可能な活動によって企業価値を一層高め、ステークホルダーに対して社会的な責任を果たしてまいりたいと考えております。

なお、当社グループはいかなる事業環境にあろうとも、企業としての健康体を維持し続けるために、適正な利益を確保することを事業運営の基本としており、今後とも健全なる企業運営によって、企業価値向上を図るよう努めてまいります。

本報告書は、環境保全活動・CSR活動をとりまとめ、「社会・環境報告書」を改めて「CSR報告書」としては初めての発行となります。

当社グループの活動をご紹介することにより、社会に信頼される企業を目指した取り組みの一端をご理解いただければ幸甚に存じます。

今後とも、皆様には、忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

トナミホールディングスグループ経営理念

「和」の経営理念を実践し、
経営基本方針に基づいて
「企業の社会的責任(CSR)」を
はたしていきます。

トナミホールディングスグループは、
「輸送を通じ社会に寄与し事業の発展をはかる」を経営基本方針とし、
「事業活動のあらゆる局面において、コンプライアンスを徹底する」
ことを行動原則とし、企業の社会的責任を
はたしていきたいと考えております。

純粋持株会社設立の目的

トナミ運輸グループは、2008年10月1日より純粋持株会社としてトナミホールディングス株式会社を設立し、新たなグループ経営体制がスタートしました。

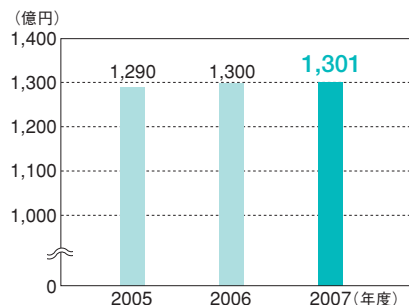
持株会社体制移行の背景には、今後、物流業界でのM&A・国際化・業務提携の深厚による業界再編などが一層加速すると予想され、事業環境の変化に的確に対応することにより、経営基盤の強化を図ることが急務となっています。

このような状況のもと、持株会社体制へ移行することにより、監督機能と執行機能の分離を行い、ガバナンス体制を強化するとともに、各事業会社の責任と権限を明確にし、戦略的意思決定の迅速化を図ることによって、スピーディな経営と機動的な業務執行を効率的に行うことを目的としています。

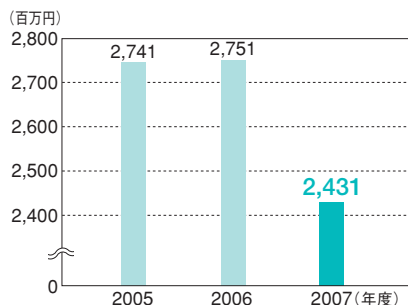
また、各事業会社のグループ内の再編を円滑に進めるなど共通機能の効率化や、経営資源の最適配分による経営効率の一層の向上、各事業領域における業容の拡大により、グループとしての競争力強化と成長戦略の推進を図り、企業価値の最大化を目指してまいります。

事業報告2007年度（2007年4月～2008年3月）

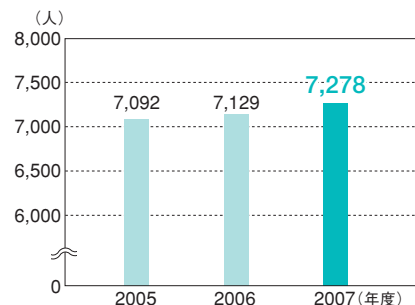
連結売上高の推移



連結経常利益の推移



連結従業員数の推移



連結事業別営業収益

事業別	金額(百万円)	構成比(%)	前期比(%)
物流関連事業	(117,613)	(90.3)	(99.7)
貨物自動車運送事業および貨物利用運送事業	87,883	67.5	99.2
倉庫業	22,343	17.1	99.7
港湾運送事業	7,386	5.7	105.4
情報処理事業	(2,446)	(1.9)	(100.1)
その他事業	(10,127)	(7.8)	(105.9)
合計	130,188	100.0	100.1

(注) その他事業欄には、物品販売業、自動車修理業、損害保険代理業ならびに委託売買業、総合リース業、旅行業、ダイレクトメール業、旅館業、その他事業の各収入を含めて表示しております。

第18次中期経営・3ヶ年計画（2008年4月1日～2011年3月31日）

基本スローガン



【輸送を通じ社会に寄与し事業の発展をはかる】

- ※「社会」・「顧客」・「株主」・「従業員」との共生をはかる。
- ※物流の担い手として、国内・国際一貫、環境への取組、CSR（社会的責任）に取り組む。

基本目標

- ① 高収益企業への成長と社会的存在価値の向上をはかる。
- ② 3PL事業の拡大と海外事業の展開をはかる。
- ③ お客様の高い評価と信頼を勝ち取る品質の実現をはかる。
- ④ 環境事業への挑戦と安定拡大をはかる。
- ⑤ 働き甲斐、誇りと生きがいを持てるよう一層の職場の改善をはかる。

事業活動と社会・環境とのつながり

社会・環境とのつながりの中で、事業活動を営んでいます。事業活動における資源やエネルギー使用量 (INPUT) やどのような環境負荷が発生しているか (OUTPUT) を把握し、この結果をもとに見直しを図り、継続的改善に取り組んでいます。

INPUT

●事業所へ

電 気	26,288,540kWh
灯 油	123.5kℓ
都市ガス	39,294m³
上 水 道	209,329m³
A 重 油	117.2kℓ
L P G (湯 沸 し)	89,218m³
コピー用紙 (本 社 の み)	1,521,500枚
梱 包 材 (段 ボ ー ル)	788,916kg

●車両へ

軽 油	41,750kℓ
ガソリン	635kℓ
C N G	647,100m³
L P G (リ フ ト)	157,400m³
タイヤ	15,669本
車両台数	5,496台





荷受け

OUTPUT

トナミ運輸(株)
環境活動

大気へ

CO₂..... 125,413t-CO₂
NO_x..... 806t
P M..... 50t

廃棄物

可燃ゴミ
・発生量..... 1,849,623kg
・再資源化率..... 32.1%

不燃ゴミ
・発生量..... 1,563,629kg
・再資源化率..... 69.3%

廃タイヤなど

廃タイヤ..... 15,669本
⇒廃タイヤのリサイクル(メーカー)
廃油 ⇒エンジンオイルの廃油リサイクル

●清掃活動 P12

●交通安全 P9~10



コーポレートガバナンス

トナミホールディングスグループは、社会・ステークホルダーから信頼される企業としての体制を整備し、事業の更なる価値創造を目指します。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

トナミ運輸(株)は、2008年10月1日・純粹持株会社体制に移行し、商号を「トナミホールディングス株式会社」としてスタート致しました。

トナミホールディングス(株)の内部統制システムの基本方針については、2008年10月1日の取締役会で決議し、その基本方針に基づき、内部統制委員会が中心となって、健全な内部統制システムの構築を図り、トナミホールディングスグループの事業価値を高めるよう取り組んでおります。

会社の機関の内容及び内部統制システム

当社には、経営方針及び経営戦略に関わる重要事項を担当する機関として取締役会を設置しており、取締役会規則に基づいて、月1回これを開催することを原則としております。なお、随時取締役会を開催し、取締役間意思疎通を図り相互に業務執行を監督することにより、当社の経営方針及び経営戦略に関わる重要事項について審議・決定を行い、必要に応じて外部の専門家を起用法令定款違反行為を未然に防止するよう努めております。

また、当社は、内部統制構築の一環として、監査役制度を採用しており、常勤監査役2名、社外監査役3名の5名体制で構成し、監査役は取締役会及びその他重

要会議への出席や意見の具申等で取締役の適法性について監査しております。

取締役の職務執行については、監査役会の定める監査の方針及び分担に従い、社外監査役を含め各監査役の監査対象となっております。

取締役が他の取締役の法令定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役及び取締役会に報告し是正を図ることとしております。

一方、当社は、内部監査部門として執行部門から独立した監査室を置いており、また、執行役員制度を採用して、経営の監督機能としての取締役と執行役員による職務の執行を分離しております。

さらに、コンプライアンス体制の基礎として「トナミグループ社員行動規範」を定め、社長を委員長とする内部統制委員会を設置し、その下に内部統制監督委員会、内部統制室を設けて、内部統制システムの構築を推進しております。

コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置し、リスク管理体制の基礎として経営リスク管理委員会を設け、内部統制体制の維持・向上のための統括・運営・研修を実施しております。

事業子会社における業務の適正を確保するため、グループ事業子会社すべてに適用する行動指針として「トナミグループ社員行動規範」及び、「グループ運営規程」を定めるとともに、これを基礎として、グループ事業子会社で諸規程を定

めています。

なお、経営管理については、「グループ会社管理要領」により、本社承認・報告事項を定め、事業子会社経営の管理を行っております。

内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの整備状況にあたっては、トナミグループの経営リスクマネジメントに関する基本方針を定め、事業子会社の運営に影響を及ぼす恐れのある様々なリスクへの適切な対応を行い、経営基盤の安定化を図るとともに、万が一、経営リスクが発生した場合の影響を極小化し、当社の損失及び社会的損失をできる限り発生させないよう取り組んでおります。

さらに、コンプライアンスの重要性を認識し、コンプライアンス委員会を設置し、「トナミグループ社員行動規範」に基づき、トナミグループ事業子会社の役員社員に企業倫理と法令遵守を浸透させるため推進担当者を選任し、コンプライアンスに関わる教育説明会を実施しております。

また、企業活動において、あらかじめ違反行為が起り得る可能性を抽出し、未然防止を図るよう、推進状況を報告させ、違反行為が発生した場合は、早期に解決し、再発防止を講ずるコンプライアンス体制の構築に努めております。

なお、取締役会が決定した基本方針に基づき、速やかな業務執行に努めており、経営に関する法令遵守事項等に



については、必要に応じて、公認会計士や弁護士等の専門家から助言を受け参考としております。

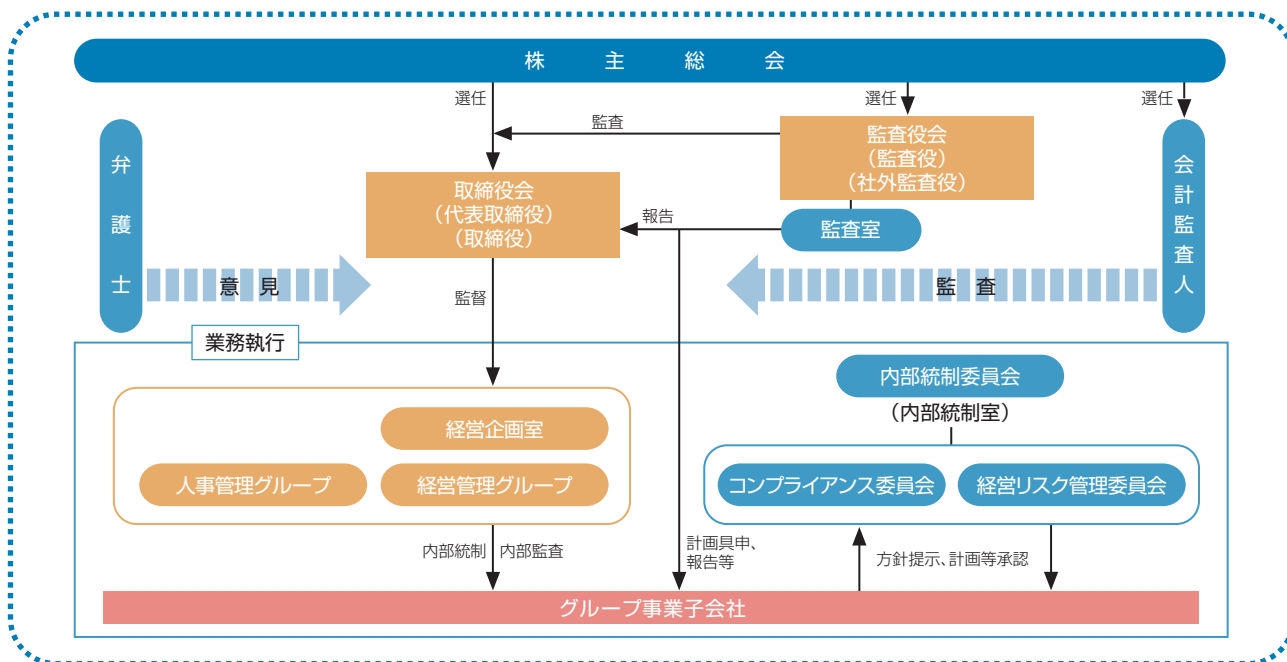
そして、「グループ運営規程」を基礎として、グループ事業子会社各社で諸規程を定め、「グループ会社管理要領」により本社承認・報告事項を定め、事業子

会社の経営管理を行うことにより、経営環境の変化に速やかに対応する体制を整え、経営の健全化に努めております。

業務執行が適切で効率よく行われているかについては、監査室による内部監査を実施し、監査役及び取締役会に報告を行っております。

反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を持たないこととしております。また、不当要求等の介入に対しては、警察等の外部専門機関との緊密な提携のもと、関係部署が連携・協力して組織的に対応し、利益の供与は絶対行わないこととしております。

会社の機関・内部統制の関係



トナミグループ社員行動規範

- お客様に、常に安全・確実・迅速な物流サービスを提供します。
- 地球環境を守るために、物流サービスのあらゆる段階において環境負荷低減に努めます。
- 輸送活動にあたって、法・社会倫理・社内規程を遵守します。
- 公正な企業活動をします。
- 整理・整頓を心がけ、清潔を保って快適な作業環境を維持します。
- 基本的人権を尊重し、良好な職場環境を維持します。
- 企業情報・得意先情報・個人情報の保護に細心の注意を払います。
- 得意先の価値創造に役立つコンセプトを構想、提案します。
- コンピュータ・ネットワークの不正な利用・業務目的以外の使用をしません。

経営リスクマネジメント行動指針

- トナミグループの役員、社員及び会社業務に従事するすべての者の安全及び健康ならびに、グループ組織の経営資源の保全を図る。
- 経営資源に被害が生じた場合は、適切かつ迅速な復旧を図る。
- ステークホルダーの安全、健康及び利益を損なわないよう行動する。
- リスクの顕在化の際には、責任ある行動をとる。
- リスクに関連する社会的要請を組織のリスクマネジメントに反映する。
- 不断のリスクマネジメント活動を通じて、会社の社会的評価を高める。



社会とのつながり

安全な社会づくりを目指して

交通事故防止への取り組みは、事業の中だけでなく地域社会まで展開し、安全な社会づくりに貢献していきたいと考えます。

あんぜん号

あんぜん号は、自動車運転の適正検査機器を備えた運転適正診断車です。動体視力検査、夜間視力検査、速度見越検査など8項目の検査機器を搭載しており、コンピュータで安全運転のポイント診断ができます。乗務員に対して定期的に適性検査を実施すると同時に、ご要望のある企業・学校へ出向き、適正診断・指導を実施しています。



あんぜん号



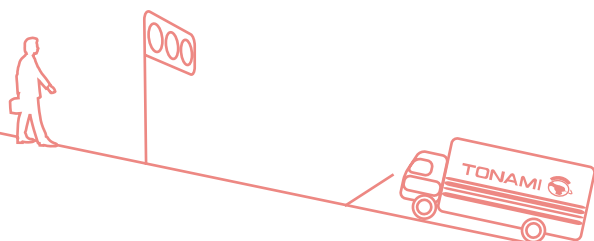
運転適正診断



高校生交通安全エンジョイスクール



ターミナルフェスタ



安全管理体制

トナミ運輸(株)は、本社に中央事故防止安全衛生推進委員会を、全国12ブロックに地方事故防止安全衛生推進委員会を設置して、交通事故防止や労働災害防止など、さまざまな課題に対して討議を行いながら取り組みを推進しています。

安全運転指導

交通安全確保のために、飲酒運転撲滅をはじめさまざまな安全運転指導を行っています。

「安全管理規程」に関するホームページはこちら

トナミ運輸(株)は総合物流企業として社会に寄与し、常に安全、確実、迅速なサービスを提供し、顧客ニーズに対応しています。

[http://
www.tonami.co.jp/policy/
pdf/anzenkanrikitei.pdf](http://www.tonami.co.jp/policy/pdf/anzenkanrikitei.pdf)

自動車安全運転センターより表彰

2007年10月25日、自動車安全運転センター静岡県事務所より、トナミ運輸(株)静岡支店の交通事故防止の取り組み結果が優秀であるとして、「銀賞」の表彰が授与されました。

トナミ運輸(株) 静岡支店
生駒 雅之 支店長コメント

「突然の表彰で驚きましたが、店の取り組みが評価された結果なので大変嬉しいです。今後、もっと上の表彰状がもらえるよう皆で取り組んでいきます」



アルコール検知器検査



実車訓練



社会とのつながり

家族交通安全ポスター

トナミ運輸労働組合では、事故防止の取り組みとして、従業員の家族を対象に交通安全に関するポスターを募集しています。優秀作品は、各職場に掲示し、家族の願いを心に刻み事故防止に取り組んでいます。



社会とのつながり

地域・社会への取り組み

当社は、地域社会の一員として、さまざまな活動を通して、地域社会に貢献していきたいと考えます。

新潟県中越沖地震救援活動

2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震被災に対し、救援活動を行いました。

中越沖地震緊急物資輸送に協力

トナミ運輸(株)新潟引越センターでは、栃木県佐野市役所の依頼を受け、中越沖地震緊急物資を柏崎市役所へ輸送しました。



救援物資の輸送協力

日本貨物鉄道(株)より感謝状

信越線長岡～上越間の鉄道輸送が不通となり、トナミ運輸(株)は、復旧するまでの約2ヶ月間、コンテナ車による代行輸送を行いました。お客様にご迷惑を掛けることなく対応できたことで、日本貨物鉄道(株)より感謝状をいただきました。

地域スポーツ活動

富山県は、バドミントンが盛んな県です。1990年に実業団バドミントン部を創部して以来、多くの舞台で活躍しています。選手は、地域の皆様の応援を受け強化に励んでいます。

バドミントン教室の開催

トナミ運輸(株)は、1990年に実業団バドミントン部を創部して以来、地域の皆様の応援を受け、多くの舞台で活躍しています。また、ジュニア層、地域選手の強化のためにバドミントン教室を開催しています。



バドミントン教室

祝!! 北京オリンピック 5位入賞

第29回夏季オリンピック大会が中国・北京で開催され、トナミ運輸(株)から、バドミントン部の舩田圭太選手と大束忠司選手が出場しました。男子ダブルス代表として、舩田選手は3大会連続、大束選手は2大会連続の出場となり、念願だった1勝を挙げ、見事5位入賞を果たしました。



北京オリンピック

社会貢献活動

清掃ボランティア活動

トナミ運輸労働組合結成60周年記念事業の一環として、国道8号線沿いの清掃活動を行いました。全国から組合役員約120人が参加、富山県高岡市から富山市にかけて、歩道（上下線）約50kmの清掃を実施しました。



トナミ運輸（株）中央支店

グリーンプロシートの販売

トナミ運輸（株）物品販売事業部では、農作物、果樹、樹木を病害虫から守るグリーンプロシートを販売し、近隣の公園の桜の木などに取り付けています。



高岡市役所前道路



グリーンプロシート

高校生職場体験学習



トナミ運輸（株）情報システム事業部

中学生会社訪問



トナミ運輸（株）桶川支店

小学生社会見学



トナミ運輸（株）金沢支店

福祉支援活動

（財団法人トナミ松寿会）

財団法人トナミ松寿会は、1994年、トナミ運輸（株）の創立50周年記念事業の一環として、社会福祉施設などへの助成活動を目的に設立された団体です。

2007年12月4日、富山県内の福祉施設3団体に送迎用車両の贈呈式が行われました。今回を含め、車両の寄贈は、延べ47台（47施設）となりました。



寄贈車両

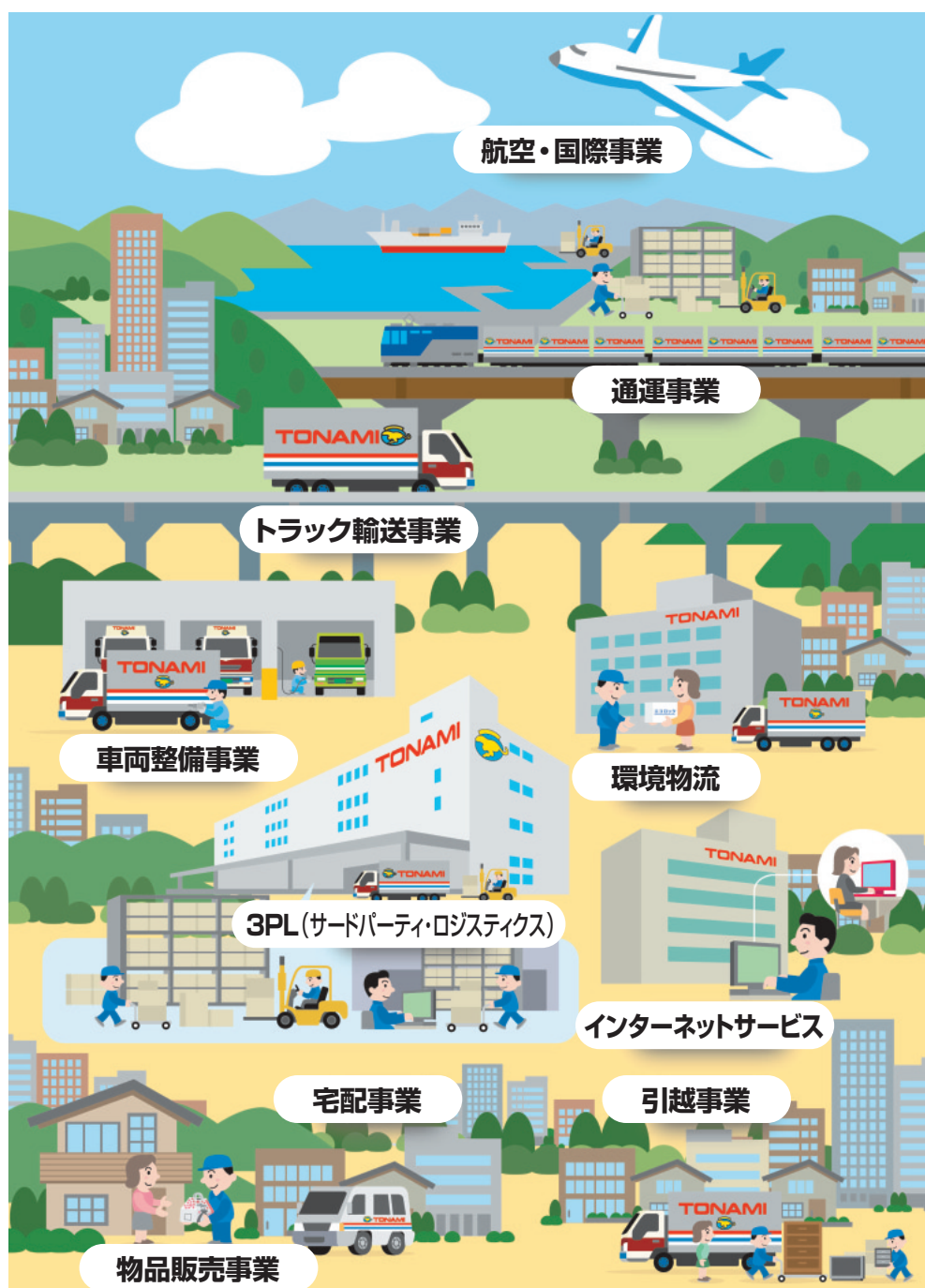




社会とのつながり

お客様とのパートナーシップ

お客様と良好で健全な信頼関係を築くため、より良質な商品・サービスの提供に努めています。



※上記の事業は、トナミ運輸(株)が展開しています。

3PL事業

(サード・パーティ・ロジスティクス)

トナミ運輸(株)3PL事業部は、最先端の物流・情報システムを活用して、需要予測から輸送、保管、流通加工、生産管理まで、お客様の業務内容に合わせたシステムを提案しています。3PLにより構築されるのが、在庫の削減、供給の迅速化、物流業務の合理化などを実現するSCM(サプライチェーン・マネジメント)です。



トナミ運輸(株) 大阪中央流通センター

国際事業

トナミ運輸(株)国際部は、国際事業におきましても国内事業同様に、効率的に高品質な国際物流サービスをお客様に提供することを目指しています。また、2007年12月に「IATA公認代理店資格」を取得しました。



IATA認証登録証

インターネットサービス

(コーラルネット)

インターネットは、情報収集やコミュニケーションなどのツールとして、現代のライフスタイルに欠かせないものとなっています。

トナミ運輸(株)インターネット事業部は、「情報セキュリティマネジメントシステム(ISO27001)」の国際規格の認定を取得し、継続的に情報セキュリティレベルの維持、向上に努めています。

また、お客様に安心・安全にインターネットを利用していただくための啓蒙活動(eネットキャラバン)を地域社会の皆様に向けて実施しています。

◎コーラルネットホームページ

<http://www.coralnet.or.jp/>

情報セキュリティマネジメントの国際標準規格
ISO/IEC 27001:2005 (JIS Q 27001:2006) 認証取得



適用範囲:インターネットプロバイダ業務

心のこもった応対を目指して



トナミ運輸(株)では、お客様と接し、生の声をいただく「電話応対」を大切な業務の一つと考えています。

お客様からのお問い合わせには、すべてに心を込めて対応し、きめ細かいサービスを行い、お客様の期待を裏切ることのないよう、電話応対の品質向上に努めています。

私の電話応対3原則

①「おはようございます」「ありがとうございます」第一声は明朗快活に!!お客様の緊張や不安にワンクッションを!

…お客様の声のトーンと口調で感情を察知できます。かしこまった言葉使いも大切ですが、時には方言が功を奏する場合もあります。

②コールは3回リミットの時限爆弾と思って!

…コールは、ナースコールのように“私を呼んでいる”と思うようにして取るようにしています。(コール数は短いほどお客様の気持ちを和らげます。)

③難易度の高い事例に興味を持つ!

…難解な事例を受けたとき、一人で悩まないで周りの人に問題提示してプラス志向で解決策を見出せば大丈夫!!

周りの人の応援、知恵の拝借、早めの対応を心掛け、お客様には安心感を提供できればと思っています。

トナミ運輸(株) 砺波支店 山崎 委江 マネージャー



社会とのつながり

人材の育成と働きやすい職場づくりを目指して

人事制度、教育制度により、個々の人材を伸ばし、また、職場の安全確保、従業員の
ことろとからだへの配慮を通し、従業員一人ひとりが活躍できる職場づくりを奨励しています。

安全な職場づくりを目指して

従業員が安全に安心して働ける労働環境を整備するため、事業所では「事故防止安全衛生推進委員会活動」に取り組んでいます。職場における従業員の安全を確保することは、従業員およびその家族の幸せ、またお客様へのサービス、物流品質の向上の観点からも重要な取り組みです。企業の財産である従業員への安全衛生対策の強化に取り組み、安全が確保された職場の提供に努めます。



朝礼点呼



事務所風景

リフト操作安全ステッカー

リフト事故を防ぐため、トラック輸送時と同様にリフト操作時の指差呼称を実施しています。



トナミ運輸(株)浦和流通センター



人事制度

従業員の活力を高め、会社の更なる成長と発展を図るため、従業員一人ひとりの個性を尊重し、それぞれに役割を与え、活躍できる環境づくりに努めています。「役割」を軸に適正な評価と処遇を行い、自己の能力を伸ばしていきます。

高齢者雇用の取り組み

トナミ運輸(株)は、継続雇用制度の適用など、定年後の従業員に対する労働環境整備の取り組みも進めています。また、2007年度より定年を60歳から61歳に延長しました。

人材育成

従業員の能力開発と人材育成を図るため、「集合研修」「現場教育」「自己啓発」を柱として取り組んでいます。集合研修で学ぶ内容、現場教育で指導すべき内容、自ら学べきものを組み合わせ、教育効果を高めています。



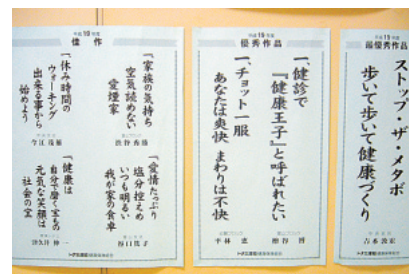
研修風景

「こころ」と「からだ」の健康づくり

従業員の健康は、充実した社会・職業生活を送るために欠かせない重要な要素と考えます。定期の健康診断はもとより、健康診断結果に基づき2次健診の勧奨、産業医や保健師による健康相談教室を実施し、従業員一人ひとりの健康管理を推進しています。

健康づくり標語コンテスト

トナミ運輸健康保険組合では、従業員、その家族の皆様健康への関心を高め、もらうことを目的に「健康づくり標語」を募集しています。入選作品は、各事業所に掲示しています。



トナミ運輸労働組合活動



ライフデザインセミナーの開催

定年を間近に控えた従業員を対象に、ライフデザインセミナーを開催しています。



親子サマーキャンプの開催

労使共催親子サマーキャンプを、毎年開催しています。2007年度は、8月4日から6日の3日間、開催されました。



環境とのつながり

環境負荷低減に向けて

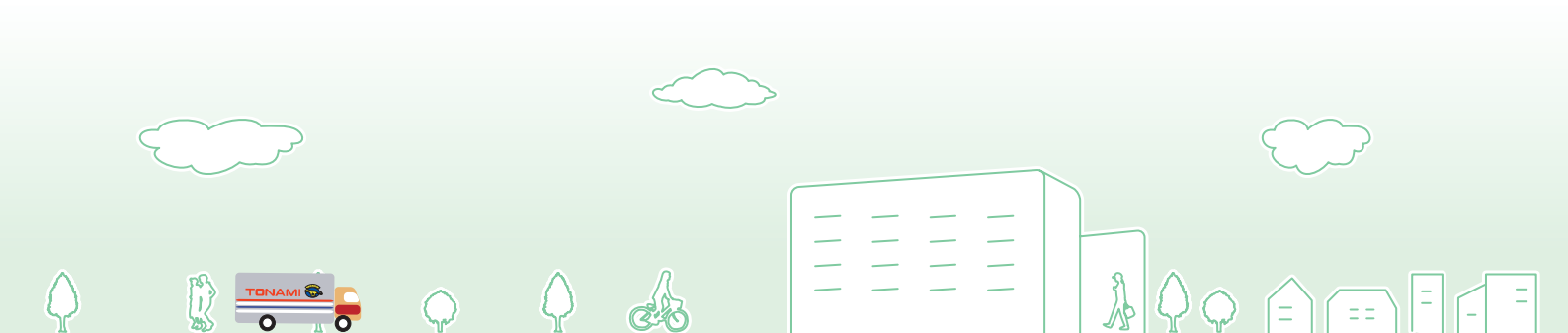
限られた地球環境の中で持続的に経済社会を発展させていくために、
役員社員一人ひとりが、環境法規を遵守し、循環型社会形成のために資源の浪費につながる
使い捨て社会を見直し、あらゆる場面において環境とのかかわりを認識し、
環境負荷低減を心掛けています。(社員行動規範より)

私たちは、安全で確実迅速な輸送サービスをお客様に提供し、
ご満足いただくことが第一の使命であると考えます。
同時に私たちを取り巻く環境問題についても、
私たちにふさわしい責任を果たすことを目指します。

環 境 方 針

地球環境を守る事は、あらゆる生命の生存に関わる最重要テーマであると認識し、「輸送を通じ
社会に寄与し、地球環境の保全に努める」を基本理念として、以下の方針に基づいて取り組みます。

1. 輸送サービスを提供することによって生じる環境汚染に対して、次の事を守ります。
 - ①環境に優しい車の導入を図ります。
 - ②エコドライブの実践に取り組みます。
 - ③物流の効率化を通じて、地球環境に優しい物流システムを構築します。
 - ④リサイクルシステムを構築し、循環型社会づくりに貢献します。
 - ⑤環境に優しい商品の開発、提供を推進します。
 - ⑥省資源、省エネルギーに継続的に取り組み、日々、改善を図ります。
2. 環境に関する国・地方自治体等の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境保全に努めます。
3. 環境目的及び環境目標を具体的に定め、定期的にレビューを実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を致します。
4. 社内環境教育、啓発活動を通して全従業員に本方針を周知すると共に、一般にも公開し、さらに、地域社会への環境保全活動に積極的に参加します。



環境保全活動の目標と実績

トナミ運輸(株)では、環境活動を推進するための体制づくりに、環境マネジメントシステムを導入しています。さまざまな活動に目標を持ち、結果を見直し、継続的改善に向けて、体制を強化していきます。

2007年度取り組み実績

○:向上 △:維持 ×:低下

実践項目	取組実績	自己評価	ページ
環境にやさしい車の導入	低公害車(天然ガス自動車30台)を導入	○	P20
エコドライブの実践	デジタル式運行記録計 396台導入	○	P21・P22
	使用燃料削減、燃費 0.9%向上(年間1,409kℓ削減)	△	
	異常運転発生率 1.8%(前年2.6%)	○	
物流の効率化と地球環境にやさしい物流システムの構築	コンテナ扱いトン数 3.5%低下(前年度比)	×	P24
	車両積載率 0.2%低下(前年度比)	×	
リサイクルシステムの構築	全事業所で使用済みストレッチフィルムのリサイクル実施	△	P23
	機密文書リサイクル(エコロックシステム)取扱量3,940t	○	P24
環境にやさしい商品の開発・提供および調達	コピー用紙、トイレトペーパー、段ボールのリサイクル品購入	△	P23
	エコマーク入り制服(男子長袖ブルゾン、半袖ブルゾン、作業用ズボン)の使用	△	
	再生トイレトペーパー 376,291ロール販売(前年実績378,827ロール)	×	

2007年度省資源・省電力の取り組み実績

実践項目	2007年度目標		2007年度実績	評価
	目標	目標値		
電力使用量の削減	2006年度比1%削減	25,534,867kWh	26,288,540kWh	×
コピー用紙使用量の削減(トナミ運輸(株)本社)	2006年度比1%削減	年間 1,493,000枚	1,521,500枚	×

環境に関する認証を取得

トナミ運輸(株)は、2003年10月、本社において環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。環境マネジメントシステムを運用し、PDCAサイクルに沿って、継続的改善を図っています。

また、グリーン経営認証を、富山支店・南大阪支店・東京航空支店・藤枝営業所の4事業所で取得し、環境保全活動の実効性を高め、環境負荷低減につなげています。



ISO14001適合証明証



グリーン経営認証登録証

環境とのつながり

地球温暖化防止・大気汚染防止のために

CO₂などを中心とする温室効果ガスの増加は、地球温暖化に大きく影響します。当社では、低公害車の導入や、輸送の効率化を図るなど、温室効果ガス削減のための取り組みを積極的に進めています。

CO₂排出量5.1%削減に向けて (2006年度比)

トナミ運輸(株)では、第18次中期経営計画において、2011年度CO₂総排出量を、2006年度比5.1%削減する目標を設定しました。

2007年度は、エコドライブの実践や低公害車の導入を図るなど環境負荷低減への取り組みを進め、軽油から排出されるCO₂を2006年度比2.8%削減しました。

電力からの排出量につきましては、2006年度比1.7%削減しました。

結果、2007年度のCO₂総排出量は、2006年度比約3,428t削減し、2.7%減の125,413t-CO₂となりました。

2003—2007年度CO₂総排出量の内訳

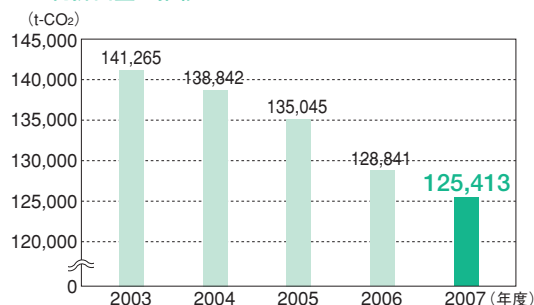
(単位:t-CO₂)

排出エネルギー	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2006年度比
	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	
軽油	127,972	90.59%	124,181	89.44%	119,387	88.41%	112,764	87.52%	109,552	87.35%	97.2%
ガソリン	1,129	0.80%	1,295	0.93%	1,480	1.10%	1,572	1.22%	1,474	1.18%	93.8%
A重油	509	0.36%	896	0.65%	1,184	0.88%	273	0.21%	318	0.25%	116.5%
LPG(車両用)	1,404	0.99%	1,262	0.91%	1,087	0.80%	1,094	0.85%	980	0.78%	89.6%
CNG	436	0.31%	558	0.40%	836	0.62%	1,227	0.95%	1,364	1.09%	111.2%
LPG(湯沸)	541	0.38%	632	0.46%	574	0.43%	571	0.44%	556	0.44%	97.4%
灯油	352	0.25%	335	0.24%	310	0.23%	295	0.23%	308	0.25%	104.4%
都市ガス	89	0.06%	84	0.06%	86	0.06%	83	0.06%	83	0.07%	100.0%
電力	8,833	6.26%	9,599	6.91%	10,101	7.48%	10,962	8.52%	10,778	8.59%	98.3%
CO ₂ 総排出量	141,265	100.00%	138,842	100.00%	135,045	100.00%	128,841	100.00%	125,413	100.00%	97.3%

注1:排出係数は、2003年7月 環境省地球環境局の事業者からの温室効果ガス排出量算定方式ガイドラインによる。(LPGを単位kgからm³に換算する場合、LPGガス産気率4.82m³/10kgを用いた)

注2:電力の排出係数は0.41で算定(電気事業連合会2006年度実績)

CO₂総排出量の推移



改正省エネルギー法への対応・進捗状況

トナミ運輸（株）では、エネルギー使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律（改正省エネ法）の対応として、

車両に係わる5つのCO₂削減対策および計画を策定し、2011年までのCO₂総排出量5.1%削減（2006年度比）に向け、取り組みを進めています。2007年度は、走行に係わる使用燃料を1,409kl

削減し、CO₂排出量は111,000t-CO₂（2006年度）から3.61%減の107,000t-CO₂となりました。

2007～2011年度の取り組み	期待効果	2007年度実績
1. エコドライブの実践		
全車両／燃費3%の向上	3,200t-CO ₂ 削減	車両全体の燃費については、0.9%向上。また、デジタル式運行記録計を導入し、導入車両については、8%燃費向上。
2. 輸配送コースの見直し		
空車キロの削減 （運行車1運行5km、集配車10km／月）	1,100t-CO ₂ 削減	2007年2月に大阪府内3支店を統合し、倉庫併設の支店を新設。車両の走行キロ削減等の効率化を推進
3. 輸送効率の改善		
運行車／積載率1%の向上	770t-CO ₂ 削減	積載率89.2%（前年より0.4%低下）
4. モーダルシフトの実施		
2008年度中に長距離運行系統（東京～広島）の鉄道コンテナ化 2便／日	550t-CO ₂ 削減	関東地区拠点設置に向け、準備中
5. 低公害車の導入		
天然ガス自動車 30台／年 ディーゼル車からの代替導入（計150台）	65t-CO ₂ 削減・ NOx・PMの大幅削減	天然ガス自動車30台導入

環境にやさしい低公害車の導入（NOx・PMの削減）

トナミ運輸（株）では、輸送に係わるNOx、PMなどの大気汚染物質削減を図るため、環境に配慮した低公害車導入を推進しています。2007年度は全社で低公害車を30台導入しました。また、NOx

の排出量の削減には、低公害車導入のほかに、最新規制適合ディーゼル車の導入が効果的です。2007年度は最新規制適合ディーゼル車を322台導入しました。結果、NOxは前年度比204t、PMは前年度比33t削減しました。



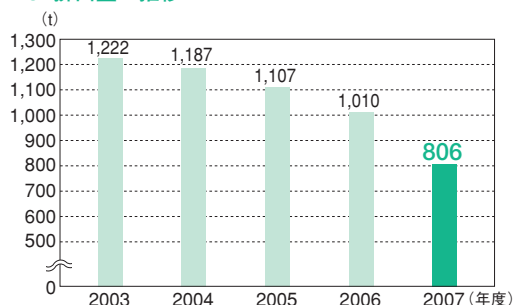
天然ガス自動車

低公害車保有実績の推移

排 出 量	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
全車両台数	4,228台	4,230台	4,221台	4,356台	4,286台	4,236台	4,342台
天然ガス自動車台数	27台	59台	75台	85台	117台	151台	181台
メタノール車台数	7台	2台	0台	0台	0台	0台	0台
LPG車台数			11台	11台	11台	11台	11台
ハイブリッド車台数				2台	2台	12台	12台
導入率	0.80%	1.44%	2.04%	2.25%	3.03%	4.11%	4.70%

※リフト・渉外車は除きます。

NOx排出量の推移



PM排出量の推移





環境とのつながり

環境と安全への取り組み

エコドライブの推進とともに、デジタル式運行記録計の導入を図るなど、環境保全と交通事故防止に向け、さまざまな取り組みを進めています。

エコドライブの推進

省燃費運転（エコドライブ）は、大気汚染物質や温室効果ガスの排出を抑えるとともに、やさしい穏やかな運転の実践により、安全性の追求、燃費の向上をもたらします。トナミ運輸（株）は、「安全」「環境」「経営」にさまざまな効果が期待される『エコドライブ』の推進を行っています。

エコドライブ教育

トナミ運輸（株）では、ドライバー研修や新入社員教育時に、自動車の適切な点検・整備の仕方、省燃費運転の注意事項について周知徹底を図っています。また、事業所でのエコドライブ活動として、ドライバー一人ひとりが取り組むべき目標を立て、実践し、その結果の見直しを行っ

ています。プロドライバーとしての安全意識向上に、日々、取り組んでいます。

ドライバーの取り組み



駐停車時はアイドリングストップ

アイドリングストップは、自動車の燃料消費量を抑えCO₂排出量を削減します。トナミ運輸（株）では、アイドリングストップワイヤー（キー抜きロープ）を全ての集配ドライバーに携帯させ、車を離れる際も、必ずエンジンをストップするようにしています。



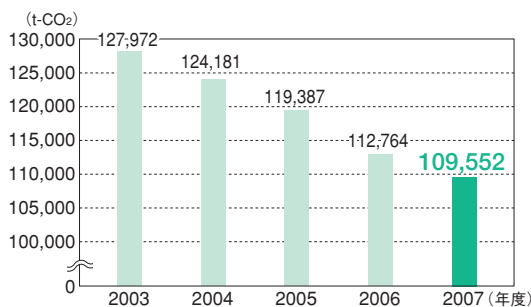
タイヤ脱落事故防止へ、点検強化

安全な運行には、日常点検の実施は欠かせません。また、『自動車点検基準』により、大型車の日常点検、定期点検において、ホイール・ボルト関係の点検が義務づけられています。トナミ運輸（株）では、全ての車両でホイール・ナット・ボルトの点検を日常点検項目としています。

長距離輸送分野の エコドライブ実施

トナミ運輸(株)のCO₂排出量の約87%が軽油から排出され、そのうちの約70%が長距離輸送車両から排出されます。CO₂削減のためには、燃費の向上を図ることが必要です。走行においてスピード規制や等速走行等、エコドライブの実践により燃費向上を図っています。

軽油からのCO₂排出量の推移



デジタル式運行記録計の活用

デジタル式運行記録計は、時間・距離・速度の3要素を含むすべてのデータを数値で記録をとり、画像での解析・表示ができます。

このシステムの導入により、危険運転や事故発生の記録はもちろん、安全運転の証明もできるようになり、交通事故防止だけでなく、模範運転について指導ができるようになりました。

トナミ運輸(株)では、2007年度に396台導入し、1,175台の車両が装着しています。

デジタコを活用しよう

- 1.安全運転の取り組み
- 2.省燃費運転の取り組み
- 3.環境に配慮した運転の取り組み

速度(最高速度・等速運転)に注意しよう!!
アイドリングを無くそう!!
急加減速減速に注意しよう!!

4.労働時間短縮の取り組み

出勤から1時間30分以内で出発しよう!!
入庫後5分以内で終業しよう!!
待機時間15分以内で無駄を排除しよう!!

トナミ運輸株式会社

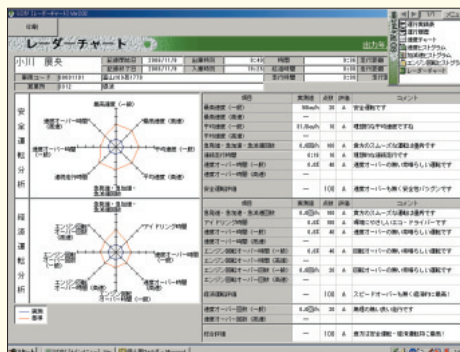
デジタル式運行記録計活用の拡大に向け、乗務員に『デジタコを活用しよう』のチラシを配布しました。

デジタル式運行記録計導入事業所より

トナミ運輸(株) 南大阪支店

味村 和雄 支店長

デジタル式運行記録計の導入には、メリットが多く、燃費向上、安全管理、労務管理、作業内容の検証にも効果が出ました。また、当支店は、グリーン経営にも取り組んでおり、環境面への取り組み強化にも効果が出ています。導入して間もない頃は、なかなか浸透しませんでした。今では、全乗務員が意識を持って取り組んでおり、結果も残せるようになりました。今後も、更なる改善に向けて取り組んでいきます。



環境とのつながり

廃棄物削減への取り組み

廃棄物削減に向けて従来の取り組みを見直し、継続的改善に努め、ゴミ減量化とリサイクルの推進を行っています。

ゴミ減量化への取り組み

職場環境や事業所近隣の環境への配慮を踏まえ、①ゴミ発生量の少ない職場づくり、②分別によるゴミの削減、③資源ゴミのリサイクル化に取り組んでいます。

2007年度廃棄物処理状況

	種 類	発生量 (kg)	再資源化量 (kg)	廃棄処分量 (kg)	再資源化率 (%)	前年再資源化率 (%)
可燃ゴミ	コピー用紙	129,805	34,152	95,653	26.3	34.5
	新聞紙	27,126	7,023	20,103	25.9	35.6
	チラシ	19,403	4,346	15,057	22.4	26.7
	本・雑誌	35,690	15,628	20,062	43.8	46.8
	段ボール	788,916	503,361	278,101	63.8	71.2
	その他の紙	675,943	28,349	638,572	4.2	5.9
	厨房ゴミ	172,741	380	132,996	0.2	2.3
	小 計	1,849,623	593,238	1,200,683	32.1	37.7
不燃ゴミ	鉄くず	180,475	77,227	98,153	42.8	25.1
	ガラス	54,590	17,178	35,363	31.5	40.7
	空き缶	254,341	207,601	46,293	81.6	81.3
	プラスチック	239,729	113,513	125,256	47.4	40.3
	ストレッチフィルム	834,494	667,677	165,198	80.0	67.8
	小 計	1,563,629	1,083,196	470,262	69.3	59.0
	合 計	3,413,251	1,676,434	1,670,945	49.1	48.2

※トナミ運輸(株)における実績です。

リサイクルへの取り組み

「とやま古紙再生サークル」活動

トナミ運輸(株)本社では、地域企業、自治体の皆様とともに、地域完結型の古紙リサイクル活動に参加し、トイレトーパー、段ボール、コピー用紙は、サークル活動に加入する企業が排出した古紙を原料とした再生製品を使用しています。

古紙リサイクル実績推移

	古 紙	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
古紙回収実績 (kg)	上質紙	0	120	230	0	2,030
	新聞	1,840	2,150	3,200	2,860	3,370
	段ボール	9,760	13,250	16,760	13,600	4,510
	雑誌	14,100	10,560	11,900	7,160	7,230
	その他	470	50	770	0	0
	機密文書	2,580	1,620	3,120	2,055	2,550
	合 計	28,750	27,750	35,980	25,675	19,690
品 購 入	トイレトーパー(個)	171,600	180,792	176,256	161,328	137,928
	段ボール(個)	88,894	71,214	58,181	64,661	69,120
	コピー用紙(kg)	6,987	5,890	6,829	6,954	6,956

グリーン購入の推進

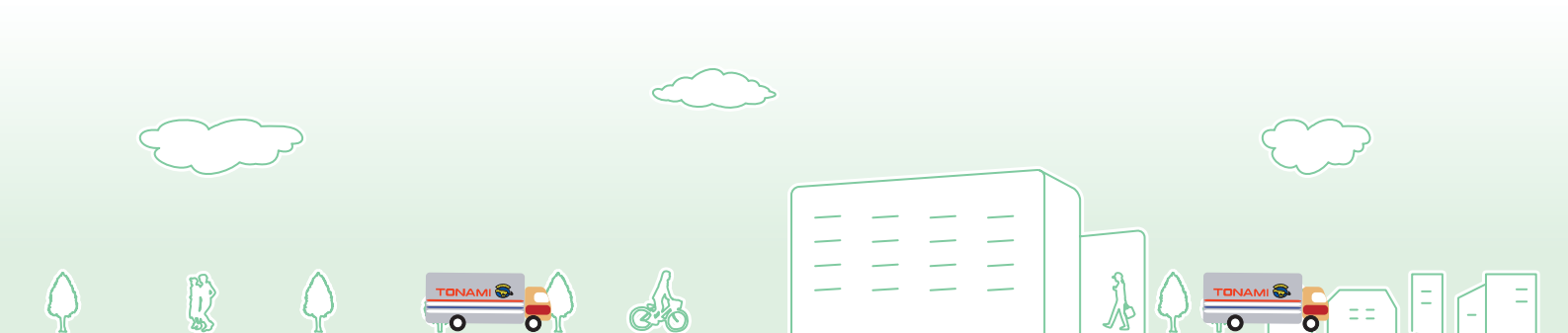
トナミ運輸(株)では、制服、またコピー用紙やファイルなどの事務用品は、環境への負荷が少ない商品の購入(グリーン購入)に積極的に取り組んでいます。



男子ユニフォーム



再生事務用品



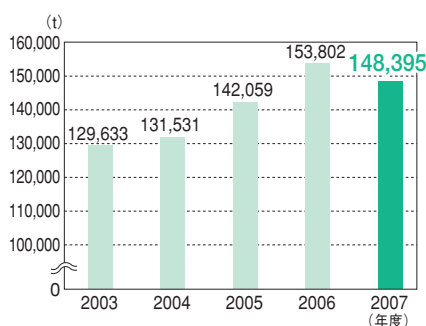
輸送の効率化

「輸送における環境負荷低減」を目指し、効率的な輸送形態の構築に取り組んでいます。

モーダルシフトの推進

トナミ運輸(株)では、モーダルシフトへの取り組みの一環として、コンテナによる鉄道輸送を行っています。トラック輸送の削減による環境負荷低減と同時に、交通事故防止や長距離運行による労務問題の解消など、業務の効率化につながっています。

コンテナ輸送実績推移



トナミコンテナ

環境物流

環境負荷低減への取り組みは、業種を問わず、現在、企業に求められている課題です。お客様には、物流企業としてできることを提案し、サポートしたいと考えます。

廃家電製品の収集運搬業務・集積場の運営

リサイクルが義務づけられている廃家電製品のリサイクルを支援するために、電機店などから排出される廃家電製品の一次収集を行っています。

また、富山県内の廃家電製品(エアコン・テレビ・冷蔵庫、洗濯機)の法定集積

場として、一地域を担当しています。取引先である家電メーカー様より「優良指定引取場所」の認定を受け、取引先に信頼される業務・運営を行っています。

機密文書リサイクル「エコロックシステム」

「エコロックシステム」は、リサイクルと

セキュリティを両立させた“機密文書リサイクルシステム”です。関東地区、中京地区に事業拠点を設置、また地域企業と共同出資し、北陸地区に「株式会社ジェスコ」を設立し、機密文書リサイクル事業に取り組んでいます。省庁や病院、金融、生損保など、あらゆる業種でご利用いただいています。



廃家電の積み合わせ



エコポスト

TOPICS

新グリーンエネルギー利用の実現に向けて・・・

トナミ運輸(株)では、産学官共同で容器包装用アルミ系廃棄物を利用した燃料電池システムの開発を進めており、アルミ付き紙パック飲料廃棄物から「燃料電池」に供給する「水素」の回収技術に関する特許を出願しました。

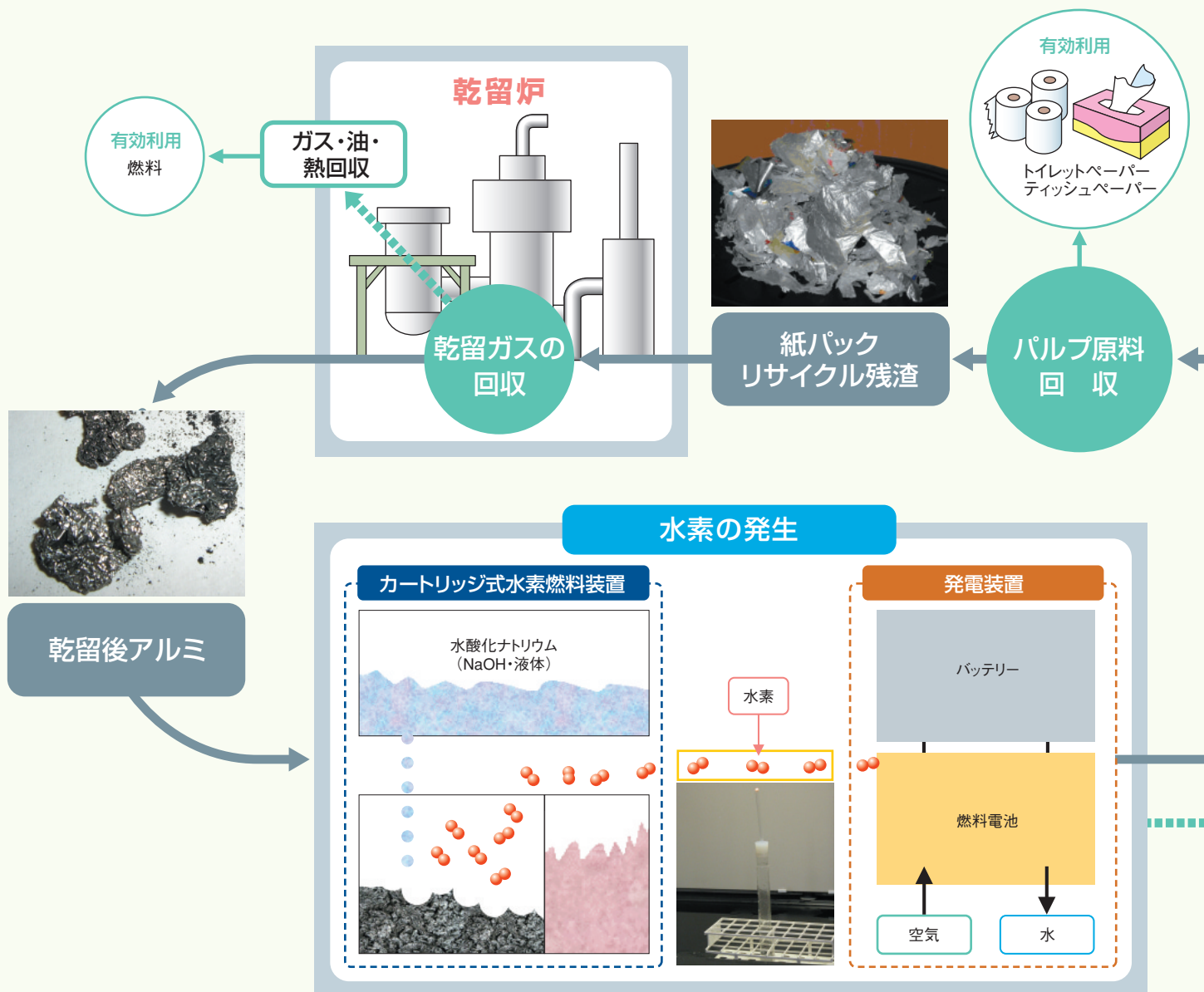
新グリーンエネルギー利用の実現に向け、研究に取り組んでいます。

特徴

- ①原材料とするアルミは、廃棄物から回収したリサイクルアルミニウムを再利用
- ②水素発生装置をカートリッジ式にすることにより、自動車搭載や電気需要の要所に自在に安全でグリーンな水素エネルギーを得ることが可能
- ③温室効果ガス(CO₂)削減に有効

今後の取り組みについて

今後、CSR経営の一環として、研究開発の成果を出すことにより、環境への取り組みの一助としたいと考えています。



容器包装用アルミ系廃棄物利用・燃料電池システムの開発

特許申請中特願2007-048111特願 2007-282748



工場から…

- ・アルミラミネート紙
- ・アルミ蒸着フィルム
- ・アルミ付き医療品包装
- ・アルミ加工端材
- ・アルミ建材



家庭から…

容器包装用アルミ系廃棄物の例

アルミ付き紙系 一般廃棄物



内部がアルミの
紙パック
5%程度



カップ面のふた
5~20%程度

アルミ付プラスチック系 一般廃棄物



スナックの袋
数%程度



お茶のパック
20%程度



ゼリー状飲料
20%程度



カップ麺の
スープ袋
数%程度



シリアルや粉末食品
などの中袋
25%程度



錠剤・粉剤の
パッケージ
25%程度



クッキーなどの袋
数%程度



錠剤のパッケージ
35%程度

ほぼアルミの 一般廃棄物



ゆでる麺のアルミ器
100%



アルミ箔（銀紙）
100%

（赤字はアルミ含有率）

容器包装用 アルミ系 廃棄物回収

電動車椅子・自動販売機・パソコン用電源などの 電気エネルギーとして活用



CSR活動の歩み

1990年10月	・リサイクル委員会（古紙の分別回収リサイクル化を目的に設立） ※使用済みPPC上質紙、色紙、チラシ、新聞紙、雑誌、ダンボール、封筒を分別回収…各部门より委員を任命、普及活動開始	
1991年7月	・とやま環境財団事業協賛	
1993年4月 5月 6月	・オリジナルトレットペーパー作成、全事業所で使用開始 ・とやま古紙再生サークル入会（使用済みオフィス古紙の分別リサイクルの取り組み活動） ・引越用再生段ボールケース使用開始	 低公害車（メタノール車）4台導入
1994年3月 9月	・財団法人「トナミ松寿会」設立 ・社内のゴミの減量化、リサイクル利用を目的に「ゴミ減量化推進マニュアル」を制定、社内配布	 低公害車（メタノール車）3台導入
1995年6月	・「危機管理規程」制定	
1997年4月 12月	・アイドリングストップ運動開始、2001年までに累計3,900本のアイドリングストップワイヤー購入 ・会社で使用するPPC用紙、その他の紙をすべて再生紙に切り替える	 低公害車（CNG車）1台導入
1998年4月	・省資源設備導入……洗車排水循環再利用システムの導入（川崎支店）	 低公害車（CNG車）9台導入
1999年1月 4月 10月	・エコロックシステム（機密文書リサイクル）事業開始 ・「整理・整頓・清掃マニュアル」制定 ・リサイクルトレットペーパーの宅配販売開始 ・「べんりねっと」開始	 低公害車（CNG車）2台導入
2000年6月 10月	・（機密・保存文書）リサイクル事業の新会社（株）ジェスコに参画 ・環境ビジネス（産業廃棄物収集運搬）事業開始	 低公害車（CNG車）1台導入
2001年4月 6月	・「ゴミ減量化推進マニュアル」を改訂、全社的にゴミの分別取り組み運動を展開。事業所内に委員会を組織化 ・ダイオキシン対策として全事業所の焼却炉使用禁止	 低公害車（CNG車）7台導入
2002年7月 9月	・プラスチックリサイクル事業への参入決定 ・「べんりねっと」による文房具グリーン調達化全事業所展開 ・「不当要求対応マニュアル」制定	 低公害車（CNG車）29台導入
2003年6月 10月 12月	・環境管理委員会（エネルギー、リサイクル、物流効率化の各委員会）発足 ・コンプライアンス室新設、コンプライアンス体制の強化 ・ISO14001認証取得 ・「コンプライアンス規程」制定 ・「社員行動規範」制定	 低公害車（CNG車）22台・（LPG車）11台導入
2004年2月 3月 6月 7月 10月	・洗車排水循環再利用システム導入（加古川支店） ・21世紀の新しい「まち美化システム」アダプト・プログラム取り組み ・グリーン経営認証取得（東京航空支店、富山支店、堺支店（現 南大阪支店）、藤枝営業所） ・「（株）静岡ドキュメントセキュリティ」を設立（機密文書リサイクル事業） ・会計伝票のペーパレス化～新財務会計システム（system21）の導入	 低公害車（CNG車）14台導入 低公害車（ハイブリッド車）2台導入
2005年3月 6月 7月	・「社内通報規程」制定 ・環境事業部、環境対策室を開設 ・「個人情報保護コンプライアンスプログラム」策定 ・内部統制委員会設置	 低公害車（CNG車）32台導入
2006年4月 6月 11月	・「トナミ運輸グループ社内通報規程」改版 ・「トナミ運輸グループ経営リスクマネジメント管理規程」の制定 ・「トナミ運輸グループ緊急時対応規程」「トナミ運輸グループ大規模災害対応規程」の制定 ・飲酒運転に関する就業規則改正	 低公害車（CNG車）34台導入 低公害車（ハイブリッド車）10台導入
2007年2月 3月 9月 11月	・洗車排水循環再利用システム導入（南大阪支店） ・「包装材廃棄物からの資源回収システム」に関する特許出願（特願2007-048111号） ・「ゴミ減量化推進マニュアル」改版 ・「産業廃棄物取扱マニュアル」改訂 ・「コーラルネット」ISMS認証取得 ・インターネット・プロバイダ事業で「有害サイトブロックサービス」開始 ・「水素エネルギーの実用化」に関する特許出願（特願2007-282748号）	 低公害車（CNG車）30台導入

※CSR活動の歩みは、2007年度までのトナミ運輸（株）の活動です。

トナミホールディングス株式会社

〒933-8788 富山県高岡市昭和町3-2-12

TEL (0766) 32-1073 FAX (0766) 32-1077

URL <http://www.tonamiholdings.co.jp/>

（本報告書はホームページでもご覧いただくことができます。）



本冊子は再生紙を使用しています。

2008年11月発行